

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071501078
法人名	医療法人 光輪会
事業所名	グループホーム フェニックス苑
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市新町395番地 (電話) 0944-56-5588

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成20年1月22日

【情報提供票より】(平成19年11月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	18 人	常勤	18人, 非常勤 2人, 常勤換算 3.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000円	その他の経費(月額)		
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.7歳	最低	74歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大牟田セントラル・クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

庭に大きなフェニックスの木があり、グループホームの名称の由来となっている。開設より6年目を迎え、入居者の身体状況の低下に伴い、重度化した入居者が増加してきているが、運営は医療法人で、理事長が内科医であるため、毎日来苑して、入居者の健康状態を把握し対応している。閑静な住宅街に、もと看護師寮を改造してグループホームを運営しているため、1階が共用部分で、2階が居室となっている。重度化した入居者については、観察が行き届く様に広い共用部分を利用してもらったり、記録も良く整理されている。身体介護の比率が年々高くなっており、今後のグループホーム全体が直面する状況を表していると共に、グループホームのあり方を考えていく上で重要な課題であると思われる。今後の事業展開において、サービスの質の向上を図る上で課題解決に向けた取り組みに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、共用部分の時計の文字が小さいこと、ボランティアの受け入れが課題であった。時計については、文字盤の大きな時計に置き換えたが、ボランティアの受け入れについては、地域の方から積極的に挨拶や声をかけられたりと地域の一員として認められてきている。今後は、町内会や老人会に参加して地域の方との交流を深めていきたいと考えている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・主任・計画作成担当者もグループホームフェニックス苑で勤務し1年程度なので、日常業務に追われているが、職員全員で自己評価に取り組み、評価の意義の理解や職員の意識の向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、理事長・民生委員・あんしん介護相談委員・家族会代表で構成し、2ヶ月に1回開催している。会議内容としては、意見や要望への取り組みについて説明し、意見交換ができるように配慮している。今後は更に地域との連携を深めていくために、運営推進会議に町内会長など多彩な地域の人材を呼びかける工夫が求められる。また、オブザーバーとして地域づくりを担う地域包括支援センターの職員の参加依頼も必要に応じて働きかけることが求められる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 行政の指導により、今年度から家族会を発足し、2～3ヶ月毎に家族会を開催している。家族会では、多数の意見や要望が出され、貴重な意見として受けとめ改善に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者の重度化に伴い、外出の機会が少なく、近隣の方々との日常的な付き合いができていない状態になっている。そこで、散歩や買い物に行く時には、地域の方々とのふれあいや交流ができるように自らの所属を明らかにしている。最近、近所の方々から声をかけられる機会が多く、入居者がとても喜んでいる。今後は、町内会や老人会に入会し、地域の行事へ参加したり、地域の方々がグループホームフェニックス苑を訪問する様な連携が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「笑顔・尊敬・尊厳・安全」とし、基本方針として地域社会の一員として生活し、地域に貢献することを掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関にも掲げているが、職員が常に理念についての認識を深められようキッチンスペースにも掲示している。管理者は職員と理念が共有できるよう些細なことでも傾聴するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の半数の方が車椅子利用のため、職員は苑内での介護に追われ、地域活動への参加・交流には至っていない。		町内会・老人会へ加入するなど、地域の一員として地域行事や祭りなどに参加し、地域との交流に努め、ボランティアなどの受け入れも検討することが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、評価の意義や理解に努めている。外部評価の結果は、ミーティングや家族会に報告し、改善を図っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、フェニックス苑の現状を報告し、評価や今後の課題など様々な意見が委員から出され、出された意見や要望は、運営面に活かしたり、改善に向けて取り組んでいる。オブザーバーとして、地域づくりを担う地域包括支援センター職員の参加依頼も必要に応じて働きかけていくことが求められる。		地域との交流を高めるためにも、運営推進委員に町内会長・老人会長など参加の働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス事業者協議会・認知症ケア研究会などを通して情報交換を行っている。今後は、社会資源の窓口、連絡・相談の窓口として連携を図っていきたいと考えている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している利用者はいないが、権利擁護全般に関して、外部や内部研修会で職員の意識向上に努めている。法人に関わる弁護士があり、年1回、弁護士がグループホームを訪問し、家族の相談に対応できる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「フェニックス苑」だよりを発行し、行事内容や職員の異動・家族会の報告などを報告している。お誕生月の入居者は誕生会の写真を同封し近況報告も行っている。定期的には、入居者の暮らしぶりや健康状態は面会にて報告している。必要に応じて電話報告も行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。今年度から家族会を定期的開催しており、家族会からの意見をもとに改善に努め、運営面の充実を図るようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤のみ職員の異動はあるので、異動については十分な説明を行い、同意を得ている。家族にも「フェニックス苑」だよりで報告している。常勤以外の職員は固定していないため、認知症介護の面から入居者の異動によるダメージ及び職員の負担は大きいものと考えられる。		法人内の異動については、職員のキャリアアップやステップアップのために異動そのものは否定されるべきことではないが、入居者のダメージを防ぐためにも、日々のローテーション勤務を見直し、現場の状況をつかみながら全体の職員のマネジメントを検討することが求められる。
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用に関しては、資格のある人を優先しているが、特に年齢や性別などの条件は規定していない。職員は経験や実績などを考慮し、個人の持つ能力が発揮できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	毎月1回、第4金曜日に法人グループ全体で勉強会を開催しており、「身体拘束及び認知症高齢者との接し方」「介護職のための職業倫理・人権の尊重・基本的態度と接遇について」など、人権をテーマとした研修を行った記録があり、今後も全職員の人権に対する意識を高めていきたいと考えている。また、新刊の介護書籍を多数購入し、各自学習してもらい自己啓発を促している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	内部研修や外部研修にも積極的に参加している。毎月、伝達研修などを行い、研修内容が業務に活かせるよう、職員全体の意識を向上に努めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	サービス事業者協議会・認知症ケア研究会に加入し、研修の機会を通じて同業者とも情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には、家族・入居者を交え、ADL・生活歴・身体状況・嗜好のアセスメントを充分に行い、希望・要望に応じて生活ができるよう支援している。また、入居者の表情・動作などを注意深く観察し、家族の協力を得て、徐々になじめるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の人格を尊重し、不安や悩みを共有し合える関係づくりに努めている。また、郷里の話・家族の話が気軽にできる雰囲気づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者の成育歴や生活歴などを個別にアセスメントを行い、希望や意向の把握に努めている。また、日々の暮らしの中でも、入居者の要望の変化に気を配り対応している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	センター方式を利用してアセスメントをとり、入居者・家族からの意見や要望を把握し、職員からの意見も検討しながら介護計画を作成している。		日々の職員の気づきをメモしていくなど記録することで、センター方式がより充実し、更に入居者の意向や思いを反映した介護計画に結びつくものと思われる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	心理面・体調の変化・ADLの低下などの変化が見られた時は、変化に応じた介護計画を作成し家族の了解を得ている。		具体的な目標を設定し、目標が達成できているかどうかを見極め、介護計画に活かしていくことが望まれる。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	運営が医療法人であり、理事長が内科医であるため、医療面は、毎日来苑して健康状態を把握している。また、法人グループのスケールメリットを活かし、年1回「花の里まつり」を開催している。講演や食品展示・販売・バザーなど多彩な催しを行い、入居者・家族・地域の方との交流を楽しむ機会がある。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	医療法人であり、理事長が内科医であるため、毎日来苑して健康状態を把握している。また、家族の希望に応じて受診の支援などを行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期のあり方については、契約書の医療機関との連携の中で、家族(入居者)が当施設での療養・看取りを希望する場合は、職員と対応について協議し、医療担当者に助言を求めて対応可能であれば、家族(入居者)の希望を受け入れる方向で対応する方針があるが書類整備が必要である。</p>		<p>重度化した場合や終末期に向けては、できるだけ早い段階から本人・家族・かかりつけ医などケア関係者との話し合いが必要で、医療処置の対応など関係者などが方針や支援の具体的な内容を話し合い、対応指針・同意書など書類を整備していくことが求められる。</p>
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の性格や習慣を把握し、言動や態度には充分配慮している。また、記録などの個人情報についても保管・管理面で配慮している。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事・散歩・入浴など、入居者の体調・気分に合わせて柔軟に対応しているが、重度化に応じた支援が望まれる。</p>		<p>入居者の介護度に応じた個別的な支援が望まれる。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の介護度が高くなり、職員が調理に関わる時間が取りにくく、食事は本部で作ったものを利用している。食事は仲良しグループごとに、おしゃべりしながら、家庭的な雰囲気ですべてを楽しんでいる。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日は一応決まっているが、入浴日以外に入浴を希望され、体調に問題がなければ入浴できるように支援している。また、入浴を拒否される入居者については、無理強いせず、本人の状況を見ながらタイミングをはかり入浴を促している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	アセスメントをもとに、台所仕事や洗濯物たたみ・お手玉作りや貼り絵など、入居者が好きなことを自由に楽しんでもらえるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	戸外に出かけるのを日課にしている入居者もおられ、庭での草花への水やりや掃除・近くの公園やスーパーマーケットへの買い物など日常的な外出を楽しんでいただけるように支援しているが、重度化に伴い個別的な外出支援の充実が求められる。		介護度に応じての個別的な外出支援が求められる。
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	ホーム周囲の交通事情から、玄関には日中も施錠しており、家族や入居者の同意を得ている。入居者が外出したい様子が伺える場合は、職員も一緒に外出している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の指導を受け改善に努めているが、居室が2階であること、入居者の中には自力歩行困難な方もおり、課題が多い状況にある。		地域の協力体制を築くことが求められ、自治会でのお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけるなど地域への働きかけが求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食前・食後・食間・就寝前には水分補給を行い、適度な水分補給を心がけている。嚥下機能が低下している入居者には、刻み食やミキサー食にして摂取を促している。嚥下機能の快復・強化が望まれる。		嚥下機能の快復・強化のために、口腔ケアや口腔機能訓練の支援が望まれる。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	看護師寮を活用しているため、食堂並びにホールのスペースがあり、広い共用空間となっている。また、広い共用空間を活かし、体調が悪い入居者は共用空間で休み治療を受けている。重度化に伴う環境づくりが求められる。		重度化した入居者への環境づくりが望まれる。
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は安全性に重視し、入居者が使いやすいように家具などを工夫し配置している。また、なじみの日用品も持ち込まれ、居室ではゆっくりと気楽に過ごしていただけるように支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			